

和書類從

二百八十二

			九 五 九 五	和 書 門
六 七 〇	冊	二 〇 四	函	類

庫 文 閣 内			
二 四 一 八	函 冊 架	九 五 九 五	和 書 類

内 閣 文 庫	
番 號	和 9595
冊 數	670 (357)
函 號	214 39



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM: Kodak



贈與會部類記

無名記

建保七年八月十五日壬子

九月八日丙辰

九月九日丁巳

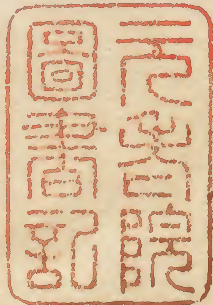
九月十日戊午

九月十一日己未

九月十二日庚申

九月十三日辛酉

九月十四日壬戌



晴御會部類記

無名記

建保六年八月十三日壬子於中殿初講和歌題云

池月久明成時出御晝御座御直衣御裝袴御劔如恒頭中將公

雅朝臣召公卿孫廂南第三間以南西折敷回座先依有御遊伶人

等恭著右大臣右近大將源朝臣太宰權帥藤原朝

臣權大納言藤原朝臣公中納言藤原朝臣隆篁前

左兵衛督源朝臣拍子修理大夫藤原朝臣笛右近

衛中將藤原朝臣家和左近衛中將藤原朝臣基篁

右兵衛督藤原朝臣雅篁殿上人候篁子資雅朝臣依付歌也

五位殿上人置御遊具頭中將持叅御琵琶女上置

右大臣座前大臣取之叅進御前絲竹發音呂宋名尊鳥破

席田鳥急律萬歲樂更衣三臺急事了伶人退下次撤御遊具置文

臺立切燈臺五位敷讀師口座文臺巽弘庇迫長押子六位敷

講師口座在文臺前聊去長押子權大納言藤原朝臣源朝臣

左衛門督藤原朝臣左近中將藤原朝臣實加御前

座殿上人六位以上次第置歌右大臣序者右近大

將源朝臣權大納言藤原朝臣良源朝臣通中納言

藤原朝臣隆左衛門督藤原朝臣左近中將藤原朝

臣實民部卿藤原朝臣左近中將藤原朝臣經中宮

群書類從卷第二百八十二

檢校保己一集

和歌部百廿七雜二

晴御會部類目錄

無名記建保六年八月十三日

權大納言顯朝卿記實治二年正月十七日

仁部記建治四年正月二十一日

無名記正應二年三月

無名記正和四年正月二十四日

後伏見院御記正和四年三月一日

後照念院記 元亨四年正月十九日

後山階内府記 曆應二年六月二十七日

中納言信俊卿記 至德元年十一月三日

後瑞雲院記 應永十九年三月廿日

無名記 應永十九年十二月九日

後山階内府記 元亨四年正月十九日
後山階内府記 曆應二年六月二十七日
中納言信俊卿記 至德元年十一月三日
後瑞雲院記 應永十九年三月廿日
無名記 應永十九年十二月九日
後山階内府記 元亨四年正月十九日
後山階内府記 曆應二年六月二十七日
中納言信俊卿記 至德元年十一月三日
後瑞雲院記 應永十九年三月廿日
無名記 應永十九年十二月九日

權大夫藤原朝臣右近衛中將藤原朝臣家從三位

藤原朝臣家左近中將藤原朝臣基宮内卿藤原朝

臣右兵衛督藤原朝臣從三位藤原朝臣保知家朝

臣範時朝臣範宗朝臣為家朝臣行能頼資信實光

經藤原康光次右大臣著讀師口座次々人各進叅

群居近邊講師範時朝臣著座持笏自下臈次第講

之次講師退下大臣依天氣叅進賜御製復座召民

部卿藤原朝臣為御製講師滿座詠吟事了各退下

于時天漢雲卷禁庭月明瑤池玉階鋪三秋之凍銀

基金闕映五更之霜醉息群臣等樂吾道之再前



雅經卿 五十六

基良卿 三十一

家嗣卿 三十一

公頼卿 四十六

資雅朝臣 三十一



有雅卿 四十七

隆衡卿 四十七



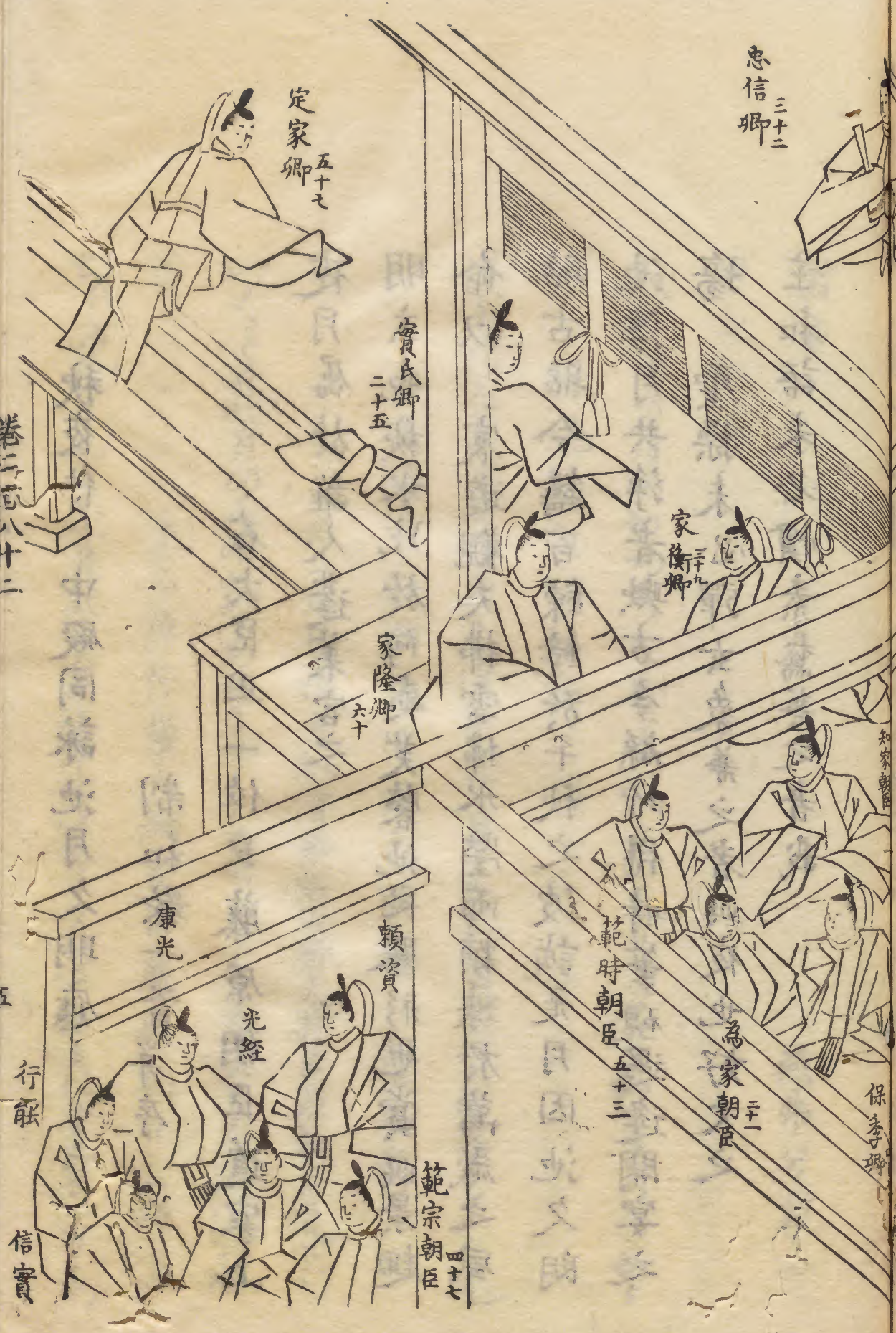
公經卿 四十八

定輔卿 五十五

通光公 卅一

右大臣道定公 二十六

卷二百八十二



秋夜侍 中殿同詠池月久明應

制和歌一首 并序

右大臣正二位臣藤原朝臣道家上

夜月屬於誰人蓬萊宮之

明主也秋水比於何處芙蓉池之勝形也賞此景趣

命以宸遊觀夫拂雲拂水瑩兩顆珠於萬歲之風

昭古昭今鑄百鍊鏡於千秋之波誠是月因池久朗

池浮月共淨者歟方今絲竹得時筆硯遇逢開宴之

場 聖操未必彈玄象兼之者此夜也好文之

主和語未必慣素鷺兼之者我

君也小臣近 龍顏兮詠八雲之詞染燕弗兮說一

日之事其辭曰

秋此池乃月のかつくも幾お代ういりも花のかさむみ

詠池月久明和歌

池おにみきはの松たうはるより月もちとせ乃新やそふらん

秋夜陪中殿同詠池月久明應 製和歌

正二位行權大納言兼右近衛大將臣源朝臣通光

いくとせれ月のみぬ秋もかけきりもゆく庭のそと池

正二位行權大納言臣藤原朝臣公経

ちの秋をみれば月此の多まてもふらさみきたすめり

正二位行權大納言臣藤原朝臣良并上

君の代のちこせれのあきさきうへて月やとまじりやすなるはる月

正二位行權大納言臣源朝臣通具上

ちくの秋と君又ちたててどむ比の急とかくてもやがる月あ那

正二位行中納言臣藤原朝臣隆衛上

幾秋うらもくぬ月のかきこえてあ代よあせむ比のそ波

正二位行權中納言兼左衛門督臣藤原朝臣忠信上

池あよとせうへてあ代のかきこえてあ代よあせむ比のそ波

参議正三位行左近衛中将兼讚岐權守臣藤原朝臣實成上

いふ水よ乃こき比月やちさうくんあふりあせ比秋のころう勢

正四位下行右大臣藤原朝臣範時上

君うみよな代たぐくもあもちの秋池のころみよ月とすじへき

正四位下行丹後守臣藤原朝臣範宗上

あみのよ乃あせもあさき池水あ乃ううに屋せあ秋のあれ月

従四位上行左近衛權中将兼美作大臣藤原朝臣為家上

あきのうへよむうりきいそふ秋の月屋とれる池もちあやとむき

散位正五位下臣藤原朝臣行能上

かきよ池池ののこよてるつこもくもるこきなくあ代やへん

藏人正五位下右衛門權佐臣藤原朝臣頼資上

池水よらあゆかあきやうてうとらあふあさ月とすじある

正五位下守中務權大輔臣藤原朝臣信實上

宮内少輔從五位下臣藤原朝臣光經上

藏人正六位上左衛門權少尉臣藤原朝臣康光上

池水又けみる月のまどとてつくらぬ秋といくたふる
應安第一初秋比書寫了 倉了判

顯朝卿記

寶治二年正月十七日丙寅晴今日外記政始也申
刻奉衛門事畢奉内陳申文之儀如例次新中納言

恭議正三位行民部卿兼行守權守臣藤原朝臣定家上

恭議從二位行左近衛權中將兼備前權守臣藤原朝臣經通上

恭議從三位行左近衛權中將兼中宮權大臣藤原朝臣忠定上

正三位行左近衛權中將臣藤原朝臣家良上

從三位臣藤原朝臣家衡上

君代のそのよする池水ふちや勢地さるあ地乃月か
いふ秋乃のそのよする池水ふちや勢地さるあ地乃月か

從三位行左近衛權中將臣藤原朝臣基良上

幾千世も君ろふとてのけり波よのりさき月とるるに於て

從三位行宮内卿臣藤原朝臣家隆上

第代も月のさうりたききしやるさうりさうりすめは

從三位行左兵衛督臣藤原朝臣雅經上

いささつにいそふとてさうりしきりかむも何くそふさるる月影

從三位臣藤原朝臣保季上

幾さるる魚んちよふかみのかさよりさうりさうりさうりさうりさうり

正四位下行中宮亮臣藤原朝臣知家上

池水のちよふとてさうりさうりさうりさうりさうりさうり

予共恭院今夜始有和歌御會依應勅喚也以廣御

所為其所件御所東南八ヶ間也座末方西方二ヶ

間有中隔遣戸座上二ヶ間為長押々々逼東障子

敷大文高麗壘二枚南北行東西相並敷之為上皇御座其南

北二行對座並敷高麗壘南北相並二枚為一行也長押下又二

行對座同之時刻攝政以下哥仙恭集頃之上皇出

御御冠次公卿次第著座侍臣不次左切灯便撤臺

臺次敷圓座次置文臺御硯蓋已上遣戸為路經座中

也進次内府被置序次侍臣置歌予位在下鵜次為置

也下然而彼兩人先置之予寂末置之但或任次公

卿置之自正臚次依召予持笏勤講師之人先例或
 上之所必可持云々且建久祖父納言如此又建
 資實卿為大弁藏人頭勤講師之時持之抑讀師先
 而依召講師然於長押下突膝即懸膝於長押昇
 藤行者座一揖正不坐回座上位文臺之間不遠之
 後乍持笏先以左手引直裾取移笏於左手以右手
 又直裾也或乍退足候云々御硯莒蓋自元乃ツツセ
 之置之違失講師取次讀師臣左大忝進被坐講師左
 方次依召殿下令伺下讀師別當忝進左府取和哥
 留序一通給所殘之歌於大理此間依召大臣以下
 為詠哥也又侍臣內為氏大理次第進之此間左府
 行家朝臣依仰忝候箕子予先一及見終讀之
 披序被置文臺上以下方被置之

切声讀之讀云春ノ日大上皇ノ仙洞ニ侍テ同ク松色
 春久トハへる唐應制スルヤハ并序
 此兩字微内ノ札不ハまうちき内ノ字讀ハテ并序
 序也讀師隨讀次第被披之講師讀之間以不伏仰
 為是或なうむる云是清輔說也或云いするト云々匡
 房說也今使予所用基俊說也且祖父納言建久勤
 仕之時受俊成卿予讀了正笏候新中納言吟詠
 詠之退下可為三反及見之心得哥心之後出音也切音二
 也其讀樣先一及見之心得哥心之後出音也切音二
 一句之絶音之讀之也序外不讀題或題如先ト每度五
 位名許讀平下四位名朝臣三位已上官姓朝臣有無
 官人讀兼官無兼官之人讀本官左右大臣左才水
 許下聞程也別當卿雖多兼官就顯職左兵衛督藤
 原朝臣下讀之了又内府雖兼右大將讀大臣了
 前藤大納言八正二位藤原朝臣下讀之也然而今度予
 五位只讀名許了早速可為宜款藤大納言嚴訓

七御哥滿人々詠之舊例每人三反詠之近代下臈
 政卜讀之
 不過一反也今度如此攝政御詠讀了即起座退直
 御製講師可為公卿之故也次詠吟了讀師被撤臣
 下哥次人々復座次被置御製次召權大納言實難
 恭進講之人々又恭候如前數反詠吟次人々復座
 次撤切灯臺如元立高灯臺又撤文臺回座等次御
 遊五位侍臣置伴具
 兼置廣御取北面
 拍子內府
 笛北山院大納言
 篳篥少將兼行朝臣
 付哥右兵衛督
 箏二位中納言
 琵琶大宮大納言

和琴右兵衛督

笙四條大納言

呂

新年

鳥破

席田

賀殿急

美作

胡飲酒

律

青柳

萬歲樂

三臺急

歌仙公卿

與攝政

與右大臣忠家

與四條大納言隆親

端角也
 左大臣兼平

與內大臣實基
 東著座

與前藤大納言為家

^瑞花山院大納言定雅

^與大宮大納言公相

^瑞万里小路大納言公基

^與權大納言實雄

^瑞吉田中納言為經

^與二位中納言良教

^瑞新中納言經光 題者

^與右衛門督通成

兵部卿有教 散位也

^與別當定嗣 相儲西方次第著座

侍臣

予

中将光成朝臣

為氏朝臣

少將為教朝臣

忠繼朝臣

左京權大夫經朝臣

前右兵衛佐行家朝臣

少將資平

自下鵲獻哥臨期閑遣戶經公卿座中央

同日陽然記 相違相漏事許註之

布衣隨身五六輩候東屏中門下刻限出御 御冠直衣搆

政奧北也著座別當奉仰至西公卿座召公卿 三公許也

兼教朝臣 筆策可著公卿後縁而當御座間居弘廂人以傾歌云々

以下缺

右晴御會部類以立原萬本校合

貞治六年乃春五戒のうら花のいふくく八徳の
外風せよ海邊の方時ふあひく宸宴とありけり
りり顛并序乃と建保の往福をあり孫事國
あまをうもたるとれ征夷大將軍けりす
心さしあさかすしと勅撰かちを中をさかき
しと建武宸宴不贈左府乃若濁るさいあり
うと森之勅命りちりしにんふ未とく教傳と
當時乃花親後代の英談をふとやまひ蔵人たせ
弁仲光慈日勅喚乃くく頭をくく花多春
友とて不顛たりけあひ國白建保の例よりとて

貞治六年中殿御會記 松雲 井の花 後普光園攝政 良基公

聖人の心ありとありと詩三百よきしゆありと
とんとたしゆとちとるを乃と急とやとくしとを
けしひみあしとるをのあまみくひの道と
ととやとととと又かくりくとありと政教の
心をきしと王道の興廢をふけけみらたり
いふく乃代くの心門春の花乃ありと秋の月乃
あまふはあはれとをくまらりて人のこと
しととらとたるとととととととととととと
為流俗なりとととととととととととととととと